

# 洪水から地域守った偉人

## 周藤彌兵衛博覧会開催へ

### 松江 絵入りせんべい販売

松江市八雲町を流れる意宇川の治水工事に力を尽くし、地域を洪水から守った江戸時代の偉人・周藤彌兵衛の業績をたたえようと、住民組織が「周藤彌兵衛博覧会」を初めて開催する。郷土の偉人とその業績を広く市民に知ってもらおうのが狙い。9月3日に同町の日吉ふれあい会館で行われるイベントでは、偉業を振り返る資料展示に加え、彌兵衛の絵入りせんべいが当日限定で販売され、会場を盛り上げる。



周藤彌兵衛は1706年、56歳の時から、私財をなげうち、42年間にわたり山を開削するなど治水工事を進め、はんらんする川の流れを変えた。イベントを企画したのは、住民有志でつくり、

常襲する洪水から地域を守るため半生をささげた彌兵衛の治水工事について講演するほか、ガイド役となって、意宇川の開削地など、彌兵衛ゆかりの地を巡る。ルート上には、同顕彰会が新たに作った散策路の案内看板があり、博覧会に合わせて除幕式を行う。

15年前から活動する彌兵衛顕彰会（石原茂会長、26人）これまで史跡の散策地図や案内看板を作製してきたが、彌兵衛の足跡を伝えるイベント開催で、認知度の向上を図ろうと昨年10月から「博覧会」の準備を進めてきた。

彌兵衛を描いた紙芝居も披露される予定で、会場には、彌兵衛の資料パネルを並べるほか、地元特産の竹細工やみそ、彌兵衛の肖像が焼き印されたせんべいが販売され、イベントを盛り上げる。

26日には、最終打ち合わせが行われ、同会メンバーの八雲公民館石倉知樹館長(64)は「彌兵衛を知らない人も、この機会に偉人の足跡を見つめ直してほしい」と来場を呼び掛けた。

周藤彌兵衛博覧会の初開催に向け、打ち合わせをする顕彰会のメンバー